

東京都総合防災訓練への海外レスキュー隊参加について 平成21年度報告書

平成21年8月30日実施の東京都と世田谷区・調布市による合同総合防災訓練に、アジア大都市ネットワーク（ANMC）21会員都市である、シンガポール、台北市から救



助隊が参加しました。訓練では、東京消防庁の消防救助機動部隊（通称ハイパーレスキュー）と連携して倒壊建物からの救出訓練を行いました。また、本年は、総合防災訓練に先立ち、東京消防庁関連施設の視察と合同訓練を実施しました。

ANMC21会員都市との連携訓練は、平成18年度のソウル特別市、平成19年度の台北市、平成20年度のソウル特別市・台北市に引き続き、今回で4回目となります。

一日目（8月27日）

午前中は東京消防庁にて総監表敬及び概要説明を受けたあと、立川消防署、第八消防方面本部訓練施設、東京消防庁航空隊を視察しました。

二日目（8月28日）東京消防庁消防救助機動部隊との合同訓練

第八消防方面本部

9:00	地下鉄事故救助訓練
12:00	昼食
13:00	消防救助機動部隊と意見交換
14:00	建物瓦礫からの救助訓練
15:30	総合防災訓練における訓練内容確認
17:00	終了

抜けるような快晴、30度を超える猛暑の中で、丸一日かけて消防救助機動部隊と海外救助隊との合同訓練が行われました。地下鉄事故・建物瓦礫からの救助訓練とも、最初に東京消防庁が実際の動きを見せた後、それぞれの救助隊が交代で訓練を行いました。現場さなが

らの緊迫した訓練の中、声出しの重要性、自分と仲間の安全をまず確保するといった基本的な考え方から、ロープの使い方や救助した被災者の搬送方法について等、各隊の訓練ごとに随所で細かい指導が行われました。

レスキュー隊員どうしの意見交換では、昨年度から要望の強かった東京消防庁の現場における安全管理体制の説明を行ったあと、フリーディスカッションを行いました。自殺者への対応、任務内容、消防救助機動部隊を選択した理由、手当の有無、安全管理体制、普段の訓練内容など、次から次へと話題が出、現場の隊員どうしならではの具体的な質疑応

答が行われました。午前中のプログラムに関連して、台北から、地下鉄救助訓練については半年に一度、電車の止まる夜中に実際の地下鉄で訓練を行っているとの報告もありました。



三日目（8月29日）

第三消防方面本部（NBC 対応）

- 9 : 3 0 訓練及び日程に関する説明
(消防学校第二校舎4階待機室)
- 9 : 5 0 第三方面本部消防救助機動部隊
紹介ビデオの上映(英語)
- 1 0 : 1 0 NBC 対応訓練
- 1 0 : 4 0 NBC 災害対応資器材の説明
- 1 1 : 0 0 質疑応答
- 1 1 : 3 0 終了

最初に、座学による NBC (nuclear(核) biological(生物の) chemical(化学の) 放射性物質、生物化学物質) 対応についての全体的な説明があり、部隊構成や初動体制、教育・訓練体制について講義を行いました。続いて敷地内での訓練に移り、休日のショッピングセンターでサリンが撒かれ、3人が要救助、負傷者多数という

想定のもと、東京消防庁隊員による訓練デモンストレーションを実施しました。現場への到着、現地本部の設置、原因となる化学物質の特定、要救助者の救出から除染活動、現場の保存、活動終了まで一連の流れを繰り広げました。台北隊からは、NBC 対応には一部環境保護局が関係すること(実際の救助は消防)、シンガポール隊からも、危険度のレベルにより対応部隊が異なること等、それぞれの都市での NBC 対応について説明があり、意見交換を行いました。



四日目（8月30日）

今年度の総合防災訓練は、午前7時ごろ、多摩東部を震源とする強い地震が発生し、シンガポール及び台北市からの救助隊が東京都を支援するため、被災地現場に到着したことを想定して訓練が実施されました。

調布市訓練会場の建物倒壊現場に到着した両救助隊は、都知事の見守る中、まず現場の指揮本部に到着を報告、活動内容の指示受け、倒壊した建物からの救出活動にあたりました。前日までの事前訓練の成果を発揮し、英語や中国語の指示が飛び交う中、東京消防庁消防救助機動部隊と連携し、被災者（人形）を無事救出しました。シンガポール・台北・東京消防庁の各隊員がひとつの担架を運ぶ場面も見られ、合同訓練ならではの内容となりました。



合同訓練を終えて

今年の訓練も、参加者にとって非常に実りの多い内容となりました。東京消防庁の危機管理意識や規律、姿勢については感銘を受けたとの意見を多数いただき、事務局としても大きな手ごたえを感じることができました。また、参加者からは、来年度以降の合同訓練に向け、様々な提案をいただきました。

シンガポール隊からは、追加プログラムとして管内視察の要望がありました。災害時に東京に来てもらうことを想定すると、簡単な視察プログラムを導入し、東京についての地理的・文化的概念や交通インフラ等の状況を把握してもらうことはよい考えであると思われます。

また、台北隊からは、東京消防庁の持つ装備や機材、とりわけ台北市消防局には配備されていない指揮車に高い関心が示されました。他都市にはない東京消防庁独自の取り組みや資機材を紹介するなど、視察や講義プログラムの内容を充実していくことを検討していきたいと思えます。

その他、隊員同士の意見交換の場の充実や、隊員のレベル（リーダー層、一般消防士）に応じた訓練内容の差別化など、今後の研修カリキュラムの充実に向けた提案をいただきました。

ANMC21「危機管理ネットワーク」では、今回の東京都総合防災訓練へのアジア都市からの参加のほか、アジア危機管理会議や、東京消防庁による救助技術研修の実施等、様々な事業を通じ、アジア全体の危機管理能力の向上に取り組んでいます。